

1. イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。(17:1-3)
 - a. これは福音書に記録されているイエスの祈りのうち最も長いものの一つである。祈り始める時のイエスの姿勢に注目しよう。イエスの目は天に向けられている。これは文字通りイエスが顔を上げ天を見ておられるともいえるし、霊的に天に目を留められているともいえるだろう。私たちが神に祈る時、神の御前に霊的に正しい姿勢で祈るということは祈りの大切な要素だと思う。私たちは聖霊の導きにより、イエスが十字架上で成し遂げられた御わざのゆえに、天におられる父なる神に目を留めることができるのである。
 - b. 12節23節(ちょうど一日前)では、イエスはご自身の栄光が現される時が来たとおっしゃっている。この地上でイエスが受けられた栄光はまずむごい十字架の死から始まった。天で神の栄光を受けるには多くの場合この世からの拒絶を伴う。この世(生きている間)と天の両方で称賛される人というのはめったにいない。普通はこの世か神のどちらかを選ばなくてはならない。
 - c. イエスが神に栄光をもたらした最もすばらしい御わざは永遠のいのちを与えたことであつた。イエスはここで永遠のいのちとは必ずしも永遠に生きるということではなくいのちのクオリティーであり、神とイエスとを知る(密接な関係を持つ)ことだとおっしゃっている。神との関係というのは、私たちが生涯で常に力を入れて取り組むべきエリアである。
2. あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたがあの栄光で輝かせてください。(17:4-5)
 - a. 神との正しい関係があつたうえで、私たちに用意された良いわざを正確に行うことができる。イエスは与えられたわざを行うことによって神の栄光を現された。
 - b. イエスはある使命を持って地上にいらした。神がイエスをこの世に遣わされたように、今度はイエスが私たちに世に送り出そうとしている。神の栄光を現すことはイエスが私たちに与えられたことを成し遂げることによって実現する。
 - c. 繰り返すが、神が私たちに命じることすべてを行うということは、しばしばこの世が期待することに背を向けなければならないということである。イエスは天にて神の御前で栄光を受けられたが、地上では十字架の苦難を受けられた。イエスは従う者すべてに自分の十字架を背負うように求めておられる。
 - d. ここではっきりさせておきたいのは、良いわざを通して神の栄光を現すことは、良いわざを通して神との関係に入る、ということではない。私たちが永遠のいのちに入るのはあくまでもイエスを信じることによってである。
3. わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであつて、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。いま彼らは、あなたがわたしに下さったものはみな、あなたから出ていることを知っています。それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。(17:6-8)
 - a. 永遠のいのちは、イエスのメッセージを信じることによって得られる。イエスが神から与えられたことばを話され、イエスご自身が神のことばが肉体となつたお方であるということを知ることである。
 - b. 神のことばを守るということは聖霊が語り、受け手が信じるという超自然的なプロセスで、ほとんどの場合ある種の行動へと導かれる。
 - c. 今はもはやイエスが弟子たちに直接神のことばを解き明かす時代ではないが、この前の章でイエスは聖霊が神の御わざを私たちに明らかにすることでご自身の栄光を現すとおっしゃった。イエスの霊との共同作業によって私たちはそのことばを守り続けることができるのである。